



西九州大学

健康福祉学部 社会福祉学科 臨床心理コース

長野恵子 (ながの けいこ)

所在地：佐賀県神埼市神埼町尾崎 4490-9

http://www.nisikyuu-u.ac.jp/

Profile — 長野恵子
西九州大学健康福祉学部教授。専門は臨床心理学、老年心理学、障害児・者心理学。著書は『上手に老いを生きる』(共著,北大路書房),『障害特性の理解と発達援助』(共著,ナカニシヤ出版)など。



西九州大学は佐賀にあります「SAGA ってどこにあるの？」と尋ねられることがあります。福岡と長崎の間に位置し、北と南を海に挟まれ人々の生活が自然と共存している県です。

この佐賀県には、大学が佐賀大学と西九州大学の二つしかありません。佐賀県で心理学を専門的に学べるのは本学のみです。西九州大学のキャンパスは佐賀市内と近郊の神崎市と二つに分かれており、心理関係の学科コースと大学院があるのは神埼キャンパスです。JR 神埼駅からスクールバスで約 10 分の距離です。佐賀県と福岡県出身者が大半を占める学生の半数以上は車で通学しています。周りは写真のとおり緑に囲まれた田園地帯で、近くには弥生時代の吉野ヶ里遺跡があります。秋の稲刈りそして麦の穂がたわわに実る 5 月末の**ばくしゅう**の頃、大学の周りには黄金色の世界が広がり、夕暮れ時にはなお一層輝きが増します。(写真 1)



写真 1 緑に囲まれた神埼キャンパス

社会福祉学科「臨床心理コース」 として

本学は、健康福祉学部、リハビリテーション学部、子ども学部の 3 学部構成で、人の生活を支援する専門職業人を育てる大学です。心理学を体系的に学べるのは、健康福祉学部社会福祉学科「臨床心理コース」です。20 名前後の学生が 2 年次からコースを選択して、心理学の基礎科目に加えて臨床心理学的援助の技法を学んでいます。

社会福祉学科という枠組みのなかにあるコースという特性から、卒業時にはほとんどの学生が認定心理士と社会福祉士国家試験受験資格を取得します。さらに臨床心理士をめざす学生は、本学大学院へ進学します。

教員スタッフは古賀靖之教授(認知行動療法)、平川忠敏教授(コミュニティ心理学)、西村喜文教授(芸術療法)、池田久剛准教授(精神分析のカウンセリング)、利光恵准教授(障害児心理学)と筆者(高齢者臨床心理学)の 6 名で、

大学院の科目も担当しています。

カリキュラムの特徴

— 少人数&実践力

社会福祉学科であるゆえに、社会福祉士受験資格取得のためのカリキュラムが中核になっています。3 年次夏の社会福祉現場実習を終える頃の学生には、たくましく成長した感があります。

カリキュラムは社会福祉の専門性を高めるための教育課程に、心理学の授業科目が組み込まれている形になっています。心理学関連科目の代表的なものを挙げると、1 年次の「心理学 I・II」「生涯発達心理学」、2 年次の「心理学研究法」「心理学実験演習」「臨床心理学」、3 年次の「対人関係論」「集団心理学」「心理学検査法」、4 年次の「学校臨床とスクールカウンセリング」「児童臨床心理学」「非行・犯罪と心理臨床」「高齢者臨床心理学」などです。もちろん卒業論文を作成します。各学年で 10 名程度の演習があり、担当教員と学生との距離も近いアットホームな雰囲気です。

このなかで特に重視しているのは「カウンセリング演習 I~III」(2・3・4 年次)です。ロールプレイ、箱庭、コラージュ、臨床動作法など学生同士での演習で体得したことを踏まえ、4 年次では地域在住の方々に大学に迎えての実践活動に参加します。

地域の人との実践から学ぶ

「カウンセリング演習 III」(4 年

次)では、大学院生も加わる以下の四つの活動を通し、社会の臨床現場で通用する実践力を培います。

①高齢者と共に「チャレンジ幸齢セミナー」：大学近郊在住の高齢者を大学に招き、平成元年より活動をおこなっています。「幸齢」という言葉に、「齢を重ねていくということはネガティブなことではなく、これまで得た英知を次世代に伝え、周囲から敬われる尊いポジティブなことである」という意味を込めています。これまでに臨床動作法、回想法などを採り入れてきました。今年は、コラージュ法をおこない、学生が1対1でサポートし、教員が見守る中、参加者の方々の作品は、いずれも個性あふれるものとなりました。年2回の担当ですが、学生には、元気にチャレンジしていく力を持つ高齢者に生きることを学ぶ機会になっています。(写真2)



写真2 チャレンジ幸齢セミナーの一コマ

②障害のある人と共に「学校訓練会」：昭和63年から継続している、臨床動作法による障害のある人に対する実践活動です。年6回の開催ですが、現在2歳児から40歳代までの方々が来ています。

③発達障害児とその家族と共に「日ノ隈キッズ」：学齢期の発達障害児とその家族を対象とした、長期休暇支援グループです。子どもグループと親グループに分かれ、平成17年夏より継続開催しています。

④東日本大震災による被災者と

共に「ほっとひろば西九大」：平成23年3月の東日本大震災とそれに続く原発事故後、佐賀県に避難してきた被災者の心のケア活動として、同年6月から毎週土曜日午前中に「ほっとひろば西九大」を開催してきました。プレイルームの中や運動場で、子どもたちは学生と遊びに興じ、親たちは、テーブルを囲みそれぞれの悩みや故郷への思いを語り合い、生活や子育てにかかわる情報交換をしています。

1年目は教員、有志の学生と院生、修了生で運営しました。2年目からはカウンセリング演習Ⅲの一環として、4年生が参加できるようにしました。平成25年7月末現在で、89回開催し、延べ800名を超える参加数となり、被災者の心のケアについて学ぶ貴重な場となっています。福島県ふるさとふくしま帰還支援事業(県外避難者支援事業)の補助金が力添えとなっています。(写真3)



写真3 被災者支援活動「ほっとひろば西九大」

卒業生の進路

大学院進学者は毎年若干名です。実践力を自負する卒業生の大半は、地元の佐賀県そして福岡県の社会福祉関連(施設、行政)、病院もしくは教育の分野で、実際に人を支援する専門職として活躍しています。一般企業への就職者がほとんどいないところが本コースを含む学科の特徴です。卒業生たちは、相談に卒業後教育研修にと集う機会があります。子ども連れで大学に立ち寄るなど卒業生との繋がりの強さは得難い宝です。

大学院健康福祉学研究科 健康福祉学専攻臨床心理コースでは

10年前にできた大学院臨床心理コースは、日本臨床心理士資格認定協会による第1種指定大学院として、臨床心理士を養成するためのカリキュラムを配置しています。そのなかでも、修士1年次「臨床心理基礎実習」と2年次の「臨床心理実習」では、相談室における学内実習および精神科病院や教育現場での学外実習を重視しています。

学外については、小城市教育委員会との連携協定に基づき、小城市内のすべての中学校に「心の教室相談員」として院生を配属しています。スクールカウンセラーとは違って、普段着での話がしやすい年上の存在として中学生たちとかわる中で、不登校、いじめなどを含む問題への予防的な心の支援に携わっています。

臨床心理相談室での活動

大学院附属の実習施設として臨床心理相談室があります。外部から、不登校や発達相談などの個別相談を有料で受けています。上記の「学校訓練会」「日ノ隈キッズ」「ほっとひろば西九大」などは相談室の活動として位置づけています。

新「心理カウンセリング学科」設置準備中

これまでの「臨床心理コース」での実績をもとに、平成26年4月「心理カウンセリング学科」として新たなスタートを切る予定で、現在文部科学省に設置認可申請中です。

佐賀市内の神園キャンパスにある「子ども学部」に「心理カウンセリング学科」を新設し、教育・保育分野との連携を深めていきます。大学院もこれまでのコースから「健康福祉学研究科臨床心理学専攻」として申請中で、臨床心理相談室ごと拠点を移すことになります。